

違いは、間違いじゃない！ | 止まって、考えて、共感しよう | いじめ防止集会

「えっ、そっちなの？」「あ、同じだ！」体育館に、子どもたちの驚きと楽しそうな声が広がりました。

先日(6月24日)のいじめ防止集会での一コマです。児童会代表委員の皆さんが企画した4択クイズでは、自分の考えに合わせて、子どもたちが体育館の中を移動しました。仲のよい友達と違う場所に立つこともあれば、普段あまり話さない友達と同じ場所に集まることもありました。互いの立っている場所を見渡す子どもたちの姿に、私は人間関係の大切な入口を見る思いがしました。



私たちは、自分と同じ考えの人に出会えると安心します。反対に、自分と違う考えに出会えると、一瞬、「どうしてだろう」と身構えることがあります。これは、子どもだけでなく、大人にも起こる自然な心の動きです。自然な反応だからこそ、「違い」に出会った瞬間の振る舞いが大切になります。「違うから、おかしい。」「違うから、だめ。」そう反射的に決めつける前に、一度止まってみる。「そういう考えもあるよね。」「自分とは違うけれど、そう感じる人もいるんだね。」そう受け止める一拍の「間」が、相手を傷つけないための大切な時間になります。

その流れを、子どもたちにも分かりやすい言葉として表してくれ

たのが、児童会代表委員会によるスローガン、『止まって、考えて、共感しよう』です。この言葉を、子どもたち自身が選び、全校に届けてくれたことに、大きな意味があります。相手をすぐに決めつけないこと。自分と違う感じ方に出会ったとき、少し立ち止まって考えること。そして、相手の心に近づこうとすること。

その願いを受けて、集会の終わりに、私から子どもたちへ一つの言葉を添えました。「違いは、間違いじゃない！」それは、児童会代表委員会が届けてくれたスローガンと同じ方向を向く、五小全体へのメッセージです。

いじめを考えるときに大切にしたいのは、「言った側のつもり」だけで終わらせず、「受け取った側がどう感じたか」に立ち戻ることです。「そんなつもりじゃなかった」で終わらせるのではなく、自分の言葉が相手の心にどう届いたのかを想像する。このスローガンは、ただの合言葉ではなく、よりよい人間関係を築くための具体的な手順でもあるように思います。

困っている友達に気付いたとき、知らないふりをしないこと。すぐに先生や周りの大人につなぐこと。そうした一つ一つの行動が重なって、違いを責めるのではなく、違いから考える「五小の空気」をつくっていきたいですね！

違いは、壁ではなく、新しい良さに出会う扉です。ご家庭でもぜひ、「自分と違う考えの人に出会ったとき、どうしたらよいか？」と、お子さんと話題にしていただければ幸いです。



学校には、たくさんの声があります。笑い声、返事、友達を呼ぶ声。その中に、声にならない気持ちがまぎれていることもあります。

ある国際調査では、日本の15歳の86%が、「学校に居場所がある」と感じています。一方で、10%は学校でさみしさを感じ、6%は取り残されているように感じると答えています。

大切なのは、数字の大きさだけではありません。同じ教室にいても、感じ方は一人一人違うということです。

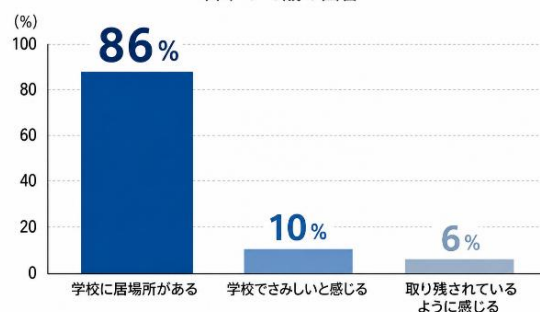
「大丈夫そう」に見える子の中にも、言葉になる前の気持ちがあるかもしれません。だからこそ、学校では、子どもたちの表情や言葉の変化に、丁寧に目を向けていきます。ご家庭でも、何気ない会話の中で、お子さんの心の居場所に、そっと耳を傾けていただければと思います。



.....「聞こえた？」.....

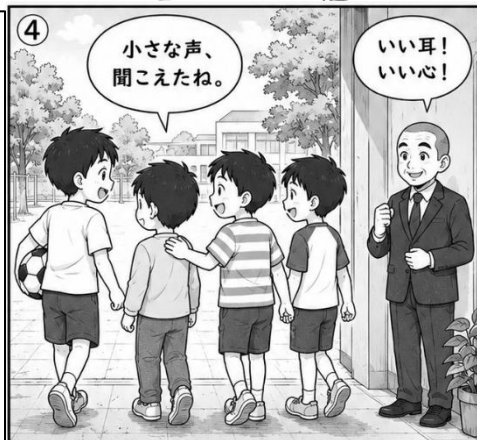
学校の中の『居場所感』

日本の15歳の回答



※OECD PISA2022 日本の15歳の回答より

出典: OECD PISA2022



第五小学校のホームページでは、たてわり活動、ミナノワタプロジェクト、田んぼアート、社会科見学など、五小の様々な活動を紹介しています。

校庭や畑、田んぼ、地域の施設など、学びの場は学校の中だけにとどまりません。子どもたちが実際に見て、聞いて、体験している様子を、写真と記事でお届けしています。紙面では紹介しきれない場面もありますので、ぜひ学校ホームページもご覧ください。



第1回たてわり活動実施！

～ 異学年でつながる第一歩 ～

6月17日(水)。朝行事において、第1回目となるたてわり活動が行われました。
まず最初に、団長・副団長からあいさつがあり、その後、各班に分かれて自己紹介を行いました。
初めての活動ということもあり、少し緊張した様子も見られましたが、上級生が下級生にやさしく声をかける姿や、班の仲間の話を聞こうとする姿が見られました。こうした小さな関わりが積み重なって、たてわり活動の大切な一歩です。
異なる学年の児童が関わり合うことで、下級生は「上級生が見守ってくれている」という安心感をもちます。また、上級生の言葉のかけ方や動き方を身近に見ることで、下級生も「次は自分がこうしてみよう」と、関わり方を自然に学んでいきます。
一方、上級生にとっても、班をまとめたり、下級生を気かけたりする経験が、リーダーとしての自覚を育てる大切な機会になります。
これからのたてわり活動を通して、学年をこえたつながりがさらに広がっていくことを楽しみにしています。10月の運動会で、どんなチームワークが見られるのか、今からとても楽しみです。



自分で選び、友達と深める社会科！

～ あたたかい土地・寒い土地の暮らしをまとめました ～

6月19日(金)。3時間目に5年1組の教室をのぞくと、社会科「あたたかい土地と寒い土地の暮らし」のまとめに向けた学びが展開されていました。
これまでに子どもたちは、自分で「あたたかい土地」「寒い土地」のどちらを調べるかを選び、資料やタブレットを使って情報を集めました。
集めた情報を整理したり、図や表に表したりする作業を経て、子どもたちは、自分が伝えたいことがより分かりやすく伝わる方法を考えていました。
まとめ方も…模造紙、リーフレット、ミニブックなどさまざまです。また、先生に質問して確かめる子、友達に聞きながら考える子、自分で資料を読み比べる子、グループで相談しながら模造紙に整理する子など、学び方にも一人一人のよさが表れていました。
それぞれが選んだ方法で調べたことを形にしながら、友達の考えにもふれ、自分の見方を少しずつ広げていく…。自分で選び、必要に応じて人とつながりながら学ぶ姿に、これからの学習につながる大切な力が感じられる、とてもよい時間となりました！



綿花、力強く成長中！

～ ミナノワタプロジェクトの今 ～

6月19日(金)。
本日の12時現在、ミナノワタプロジェクトで植えた綿花が、少しずつ大きく育ってきています。
校舎わきの畑をのぞいてみると、緑の葉を広げながら、太陽の光を受けてぐんぐん伸びている綿花の姿が見られました。植えた種や苗のすべてが同じように育っているわけではありませんが、何本かはこうして力強く根を張り、葉を広げています。
これからどのように成長し、どんな花を咲かせていくのか、とても楽しみです。小さな変化を見つめながら、子どもたちと一緒に、綿花の成長を見守っていきます。



田んぼに水が入りました！

～ 田んぼアート制作へ、大きく前進 ～

6月19日(金)。
田んぼアート制作に向けて、学校近くの田んぼにも、ついに水が入りました！
水が入り始めた田んぼを見ると、いよいよ田んぼアートづくりが本格的に始まっていくことを実感します。田んぼをお貸しくださっている地権者の方をはじめ、地域の皆様のお力添えに、改めて感謝申し上げます。
来週月曜日には、設計・測量面でご協力くださる設計事務所の方が来校し、アート制作に向けた準備を進めてくださる予定です。
校舎の3階から見える水の入った田んぼは、まるで「始まりの合図」のようにも見えます。こうして…たくさんの方々の支えをいただきながら、子どもたちの学びと地域のつながりが、少しずつ形になっていくのですね…。心から、感謝、感謝です！



田んぼアートの文字測量！

～ 設計事務所の皆様に測量をしていただきました ～

6月22日(月)。
今年の田んぼアートに向けて、お世話になっている設計事務所の皆様が、田んぼに描く文字の測量に来てくださいました！ありがとうございます！
この測量は、水の入った田んぼに、これから文字を形にしていくための大切な準備です。広い田んぼに、正確な位置と大きさで文字を描いていくことは、簡単なことではありません。設計図上の文字を、実際の田んぼの中に落とし込んでいく測量の技術は、まさに専門の力です。目に見える完成の前に、こうした確かな準備があることを改めて感じました。
児童の思いを、田んぼという大きなキャンパスに表していくために、地域の方々、田んぼをお貸しくださっている方、設計・測量に関わってくださる皆様が、それぞれの立場から力を貸してくださっています。田んぼアートは、稲が育つだけでなく、人とのつながりも一緒に育っていく取組なのだと感じます。
今年の田んぼアートがどのように形になっていくのか、今からとても楽しみです！なお、今後も、制作の様子や稲の育ち具合等をホームページでお伝えしていきます。お楽しみに！



ミンワタ、花壇へ！

～ 4年生が綿花の苗を植え替えました ～

6月25日(木)。
4年生がミンワタプロジェクトの活動として、綿花の苗の植え替えを行いました。
これまで育苗ポットで育ててきた苗を、一つ一つ丁寧に掘り出し花壇へ植え替えていきました。
児童は、苗の根を傷めないように気を付けながら、土の深さや苗の向きを確かめ、友達と協力して作業を進めていました。
小さな苗が、これからどのように育っていくのか。綿花の成長を見守ることを通して、植物を育てる楽しさや、命あるものを大切にする気持ちもより一層深めていきたいと思います。



田んぼに託す五小の思い！

～ 5年生が苗に思いを込めて ～

6月26日(金)。今日は、5年生が田んぼアートの田植えを行いました！
当初は前日の実施を予定していましたが、天候の影響により本日に延期となりました。地域の皆様には、日程の変更にも対応いただきながら、児童が安心して活動できるように準備を整えていただきました。
田んぼに入った児童は、植え方を教わり、一株一株、丁寧に苗を植えていきました。
田んぼの中を歩く大変さや、苗を植える難しさを感じながらも、友達と声をかけ合い、田んぼアートの大切な一画に思いを込めて取り組む姿が見られました。
今年の田んぼアートには、全校で決めた一文字「光」への思いも込められています。今はまだ小さな苗ですが、季節が進むにつれて田んぼの表情は少しずつ変わり、全校で選んだ一文字が、地域と学校の取組の足跡として形を現していきます。
田んぼをお貸しくださっている方をはじめ、準備や運営にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



ごみと水の現場へ！

～ 4年生が社会科見学に出かけました ～

6月26日(金)。
4年生が社会科見学で、クリーンセンターと浄水場を見学しました。
クリーンセンターでは、館林市内から集められたごみがどのように処理されていくのかを学びました。実際に集まるごみの量や、処理の仕組みを見た児童からは、驚きの声も聞かれました。
浄水場では、私たちが毎日使っている水が、安全に家庭へ届くまでの流れを学びました。施設の高さや大きさにもびっくりしながら、説明を真剣に聞き、たくさんの発見をしていました。
ごみの処理も水道のしくみも、私たちの暮らしを支える大切な仕事です。実際の現場で見て、聞いて、感じることで、社会科の学びを深めることができた一日となりました。



たてわり活動



いじめ防止集会



田んぼアート



ミナノワタ

アクセスは
こちら！

